分析支援プログラムについて

分析支援プログラムは、各学校において、生徒の学力等の実態を踏まえた**課題を具体的に把握するためのツール**です。各学校が着実な学力向上を図るためには、**ＰＤＣＡサイクルを確立**し、円滑に機能させることが必要となります。各学年や学級、各教科で分析することにより、生徒の学力等の実態を適切に把握し、日々の授業の工夫・改善に役立てましょう。

１　分析支援プログラム活用の例【学校課題の設定】

２　分析支援プログラムの機能と特徴

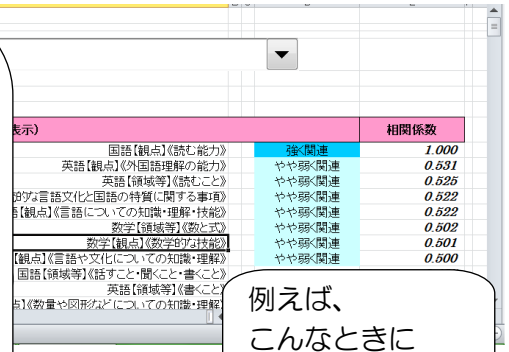
機能１　関連探索機能　（相関関係が高い項目が見つかります。）

結果が悪かった教科を改善するには、
どんなことに着目すればいいんだろう？

中学校の国語【領域等】《読むこと》を選択した場合、英語【領域等】《読むこと》や数学【領域等】《数と式》などと関連が見られたとします。

英語や数学の指導を工夫することでも、国語の【領域等】「読むこと」について、力が高まる可能性があるのかもしれません。

他に、**質問《勉強は大切ですか》**や、**質問《学校の授業の予習をしていますか》**など、**学習意欲**や**学習習慣**などの項目に注目してみてはどうでしょうか。

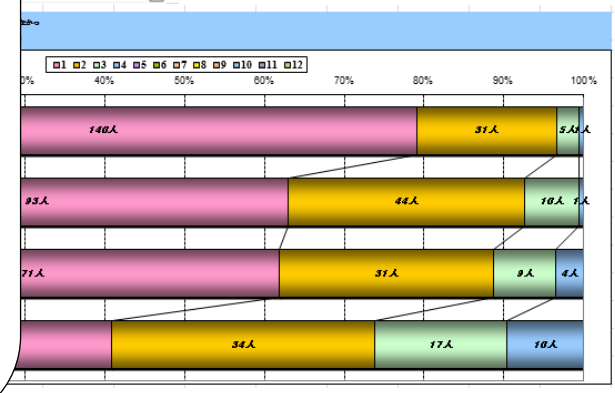


例えば、
こんなときに
つかえます！

機能２　クロス集計機能　（２つの項目の関連や分布が分かります。）

児童生徒の**学力層ごと**の回答状況は？

例えば、小学校【領域等】《数と計算》と【質問】《算数の調さの時間(40 分)はあまりましたか》を選択した場合、正答率の低い層ほど、時間が足りなかった傾向が見えたとします。

計算速度を意識した指導で改善される可能性があると考えられます。

教科に関する項目だけでなく、生活習慣（塾、テレビ、スマホなど）、自己肯定感（自分にはよいところがあるか）などとクロスしても面白いかもしれません。